

令和元年度 各分掌部・学部の目標及び自己評価

A…十分達成できた

B…おおむね達成できた

C…あまり達成できなかった

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
教務部	①新学習指導要領の実施に向け、教育課程の改善を図る。	・学習指導要領を理解して教育課程を見直し、教育課程編成の基準、教育課程表及び日課時間割の改善を行う。	・新学習指導要領に合わせた教育課程の見直しができたか。	B	・教育課程編成の基準は、新学習指導要領の内容と本校で実施している内容を併せ作成した。教育課程表や日課時間割についても改善を行うことができた。	・教育課程と指導内容や指導計画が適正に組織されているか検証し、学校課題推進委員会と連携し改善に努める。また、授業改善につながる教員の研修の工夫と実践を進める。
	②授業改善につながる教材教具の有効活用を図る。	・校内にある教材教具の一覧表を作成するとともに、各教員の自作教材を紹介する機会を設ける。	・各教材室等に保管されている教材教具の一覧表の作成及び、自作教材の紹介が教材の有効活用につながったか。	B	・管理棟と教室棟の教材室の整理を実施し、教材の保管場所を把握しやすくした。所有する教材の一部を写真に撮り一覧表の作成や教材紹介の回覧を作成し、活用を促した。自作教材は自作教材展にて紹介した。	・教材の紹介は、継続して行う。また、教材データの共有化について検討し、職員への周知と活用を促していく。
学習指導部	①新学習指導要領に関する知識を深め、授業改善につなげる。	・新学習指導要領に関する校内研修を実施する。研修で学んだ知識を基に授業を改善する。	・新学習指導要領に関する知識を深め、理解することができたか。その知識を生かし、授業を工夫することができたか。	B	・ふり返しシートの結果、新学習指導要領に関する知識を深め、理解することがおおむねできたという回答がほとんどだった。理解ができたが、授業を工夫し、改善につなげることはまだ不十分であった。	・新学習指導要領に示されている主体的、対話的、深い学びを意識した授業の検討会や研修を継続し、授業改善につなげる。
	②自立活動の指導の充実を図る。	・指導目標の立案や指導方法について校内研修会や事例検討会を実施する。外部専門家を有効的に活用し、指導に生かす。	・自立活動目標設定シートを活用し、指導目標の設定が図れたか。外部専門家と連携し、指導に生かされたか。	B	・事例検討会の対象児童生徒の目標はシートを活用することができたが、それ以外の児童生徒の目標は活用が不十分だった。外部専門家の活用はとても有効にでき、児童生徒の指導に生かすことができた。	・来年度は個別の教育支援計画作成時に目標設定シートを活用し、目標を考える。外部専門家からの助言は、校内LANを活用し、教職員間で、情報を共有する。
児童生徒指導部	①児童生徒の生活指導において、学部間での共通理解を図り学校全体で対応していく。	・ケース会議後、職員全体に伝える場を設けて共通理解を図り、学部間を越えて指導していく。	・児童生徒指導において学校全体として対応することができたか。	B	・ケース会議後に職員に通達を行い、共通理解は図れたが、学部間を超えての指導はまだ不十分な点もあった。	・児童生徒個人の指導は該当学部での対応でよいが、挨拶や服装の乱れ等については全職員での指導体制がとれるようにしていく。
	②避難訓練、引き渡し訓練等各種訓練の実施及びそれらに関連する内容の検討、改善を行う。	・各種訓練について昨年度の反省を踏まえた、より充実した訓練を実施していく。また、保護者からの意見や要望に関してもその都度対応を検討し、周知していく。	・全職員の共通理解の下で充実した訓練を実施することができたか。保護者に対しても説明や協力依頼等を十分に行うことができたか。	B	・通常の避難訓練と緊急地震速報を利用したショート訓練ともに大きな問題もなく実施できた。引き渡し訓練も保護者の協力のもと、計画通りに実施できた。	・防災リュックを背負うのが困難な児童生徒の対応や、引き渡し時の写真撮影の仕方等を更に検討していく。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
地域支援部	①地域や関係機関から得た情報を活用し、地域のニーズに応える。	・本校の教育や支援事業についての情報発信の工夫と研修内容の充実を図る。	・本校の教育や支援事業についての理解、協力を得ながら地域の関係機関のニーズに応えることができたか。	A	・夏季研修は実践に生かせる内容で多くの参加があった。一方で現場での対応等について多くの悩みを抱えているという現状を知ることができた。	・役割を明確にしつつも本校事業が上手く活用できるような情報発信の工夫と現場に近い各市町関係機関との連携充実を図る。
	②地域からの情報収集及び、地域への情報発信の充実を図る。	・自治会組織と連携した情報発信を計画的に行うとともに、職員への地域情報の周知方法を工夫する。	・自治会に向けた情報発信を定期的に行うことができたか。また登録ボランティアを含む地域情報の職員への周知を実践できたか。	B	・教務部と連携し、地域だよりの定期的な回覧を開始できた。一方、登録ボランティアの紹介等整備しきれず、周知が不十分な点があった。	・定期的な発信を継続する。登録ボランティアの活動の場を検討したり、周知の工夫や掲示物等の整備を進める。
健康指導部	①個に応じた健康課題の支援の充実を図る。	・緊急対応が必要な児童生徒のアクションカードの作成と周知を図る。	・アクションカードを作成し、教職員に使用方法などを周知できたか。	B	・発作などがある児童生徒に対してアクションカードを作成し、夏季休業中の研修で全職員に伝えることができた。	・実際の使用にはまだ至っていない場合もあったので、担任ではなくても、誰でもアクションカードを見てスムーズに対応できるように周知徹底していく。
	②感染症や熱中症予防も含め、日頃から安全な環境整備を図る。	・感染症や熱中症予防についての対策の周知徹底を図る。	・安全な環境に対する教職員の意識を高めることができたか。	B	・熱中症についてはガイドラインを周知することができ、職員の意識を高め、予防に努めることができた。怪我予防のため、危険な箇所の点検・保護などが必要であった。	・熱中症については今後も継続して取り組んでいく。感染症については流行を未然に防ぐ対策を教職員に周知徹底していく。怪我などの未然防止のために日頃から安全な環境整備の周知を図る。
進路指導部	①現場実習、職場体験等の受け入れ先事業所や校内実習での受注作業を確保する。	・関係機関や就労支援コーディネーターと連携し職場開拓や受注作業の開拓を行う。	・関係機関や就労支援コーディネーターと協力して実習受け入れ先事業所、受注作業を確保できたか。	A	・就労支援コーディネーターと協力し、今年度新たに現場実習先が13事業所、職場体験先が1事業所を開拓することができた。	・今後も就労支援コーディネーターと連携して、受け入れ事業所を確保していきたい。
	②卒業後の自立に向けた本校の取り組みについて地域社会、関係機関等と連携をし、情報発信の充実を図る。	・地域で職場体験等を実施し、本校の取り組みについて情報を発信するとともに、福祉課や障害者相談支援センター等との連絡を密にして、情報の共有を行う。	・地域の福祉課や相談支援センター等と連携をして、本校の取り組みについて通学圏の地域に情報を発信することができたか。	B	・地域の福祉課や相談支援センター等には本校の取り組みを発信し、情報の共有化ができたが、地域社会には広報誌掲載の承認を得るにとどまった。	・本校の取り組みについては引き続き発信を続け、広報誌掲載に向けて校内の体制を構築していく
渉外部	①PTA活動を推進する。	・役員改選においては、保護者全員にアンケートを配付する等、多くの意見を取り入れる。	・PTA役員をはじめ、多くの保護者がPTA活動の企画・運営に関わるすることができたか。	B	・役員改選のアンケートを全保護者に配付した結果、意見はあまり得られなかったが、PTAの活動においては、参加保護者が増えた。	・今後、役員会等において、多くの保護者が関われる役員の選出方法について模索する。併せて、全知P連栃木大会で得た経験をPTA活動に生かしていく。

渉外 部	②全知P連栃木大会に向けて、保護者と職員全員で準備や運営を行い、大会成功に向けて一丸となって取り組む。	・保護者に全知P連栃木大会に係わる業務の協力依頼を呼びかけて、事前準備や当日の運営に関わっていた。また、校内運営計画を基に職員全員で業務に取り組む。	・大会開催までの準備や運営に保護者と職員が協力し合って、大会業務に取り組むことができたか。	A	・保護者と職員が協力し合って、全知P連栃木大会を滞りなく開催することができた。また、保護者へのアンケートでは、先生方と一緒に準備を行ったことが大変良かったとの感想が多く寄せられた。	・今後、栃知P連や特教振、創立40周年行事等で全知P連栃木大会で得た、保護者と教職員の協力体制を生かせると良い。
	①各活動を通して児童生徒の豊かな心を育成する。	・児童生徒の興味関心、生活年齢や学習状況を踏まえて、指導内容の設定をする。	・運動会や交流学习発表会、児童生徒会活動や部活動等において、経験を広めて積極的に活動できたか。	A	・各行事とも児童生徒の興味関心や発達段階に配慮し、指導内容等に工夫が見られ、達成感を味わうことができた。	・今後も教師間の協力体制の充実を図るとともに保護者から上がってきた若干の改善点について検討をしている。
特別活動 部	②児童生徒の活動や部活動の活動状況を保護者全般に広めていく。	・ホームページを利用して、児童生徒会の活動や部活動の状況及び各種大会の結果報告等の情報発信を行う。	・情報を随時発信して伝えることができたか。	B	・ホームページで適切に行事や生徒会の活動報告を発信することができた。	・ホームページによる情報発信が過多にならないよう、必要な情報のみを迅速に発信するようにする。
	①教職員のICT活用をサポートし、授業、校務処理等で活用できるようにする。	・新たなシステム(teams)の基本的な使い方や活用方を教職員に知らせ、活用していく。	・研修会や資料などで、新たなシステムについて説明し、活用を促すことができたか。	A	・teamsの研修会を実施し、各学部、校務分掌等で活用している様子が見られた。	・必要に応じて研修会の実施、資料の配付など行っていく。
情報 部	②教職員の情報モラルやセキュリティに関して意識の向上を図る。	・改訂されたセキュリティ運用規程を周知するとともに正しい知識と対応方法について情報発信と研修を進める。	・情報モラルやセキュリティに関する規程遵守や注意喚起をとおして、正しい知識を身に付け意識の向上を図ることができたか。	B	・特別に研修等は行いうことはなかったが、運用規定に基づき、適切に情報を取り扱うことができた。	・主に学期末、年度末に情報モラルやセキュリティに関する注意喚起を行っていく。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評 価	自 己 評 価	改 善 方 策
小学部	①基本的な挨拶を自ら進んで行うことができる児童を育成する。	・意図的な挨拶の場面を設定するとともに、教師が率先し挨拶をして模範を示す。	・一人一人の実態に応じた表現方法で進んで挨拶ができる児童が増えたか。	B	・自主的に挨拶をすることが難しい場面があったが、相手からの挨拶に対して自分なりの方法で挨拶を行うことができた。	・挨拶の大切さを継続指導するとともに、一緒にいる教師が模範を示し率先して挨拶を行うようにする。
	②様々な学習場面を通して、道徳教育の指導の充実を図る。	・学習指導要領の道徳の目標・内容及び本校の道徳教育全体計画を踏まえた指導を実践し、適切な評価を行う。	・年間指導計画等に授業に添った道徳の指導内容を記入し、実践できたか。また、道徳の指導の観点を取り入れた評価ができたか。	A	・係が作成した各教科領域別の道徳の指導の観点一覧表を基に年間指導計画を作成し、授業を実践できた。評価についても指導の観点を意識して行うことができた。	・指導の観点一覧表を基に、さらに授業内容を検討して年間指導計画に反映させる。評価に関しても、指導の観点を取り入れた表現方法を工夫する。
中学部	①自ら挨拶をする習慣と進んで他人に伝えようとする力を育てる。	・個々の実態を把握して目標や取り組む場面及び状況を具体的に設定し、教員間で共通理解を図りながら指導にあたる。	・意図した場面や状況において、目標が達成できたか。	B	・個々の実態に応じ、場面や方法等を具体的に設定することで、ポイントを絞って指導を行い、変容を認めることができた。しかし、次の段階へのさらなる課題も見えてきており、継続した指導の必要性を感じる。	・個々の生徒の課題を洗い出し、段階アップした目標を設定するとともに、日常生活の中で自発的に行動できるよう定着への方策を見つけていく。
	②新学習指導要領に基づいた指導について、学部全体の理解を深める。	・新学習指導要領の改訂のポイントを捉えて各教員が主体的に指導に取り入れ、グループ研修を通して話し合い、理解を深める。	・各教員が、新学習指導要領に基づいた指導について理解を深めることができたか。	B	・研修会を通し、新学習指導要領のポイントを意識した授業についてグループでの話し合いを行う中で、ある程度の理解を図ることができた。個々の教員が有効に活用するにはさらに研修が必要と感じる。	・引き続き、様々な学習の中で新学習指導要領を意識した指導を行い、グループで話し合いを重ねていく。
高等部	①卒業後の家庭生活、社会生活を豊かにするための指導の充実を図る。	・基本的な挨拶言葉、職場を想定した挨拶言葉などを理解し、状況に応じたコミュニケーションがとれる機会を設けるとともに、とちぎの高校生「じぶん未来学」を取り入れた授業を展開する。	・挨拶の仕方やコミュニケーションの取り方に向上が見られたか、「じぶん未来学」を取り入れた授業が実践されたか。	B	・公開授業のアンケートや実習の評価などからも生徒の挨拶については、良くできているという評価をいただいている。今後は挨拶言葉の応用などコミュニケーションの膨らませ方についての指導が必要である。「じぶん未来学」を取り入れた授業では、テキストの資料を参考にして進めることができた。	・挨拶だけで終わらず、コミュニケーションをとるための会話ができるように指導をしていく。
	②勤労意欲を高め、職業生活に必要な知識や実践的な態度の向上を図る。	・校内実習及び産業現場等における実習での評価表をもとに、職業生活に必要なとされる能力の向上を目指し、作業学習のみならず各教科等での実践に取り組む。	・生徒の強み弱みを明確にして、必要とされる能力の向上のための、授業展開ができたか。	B	・毎学期の実習評価とともに生徒の強み弱みを明確にした。個人的な弱みや集団での弱みをピックアップして、作業学習の時間だけでなく他の授業でも関連付けて指導ができた。	・今後も、実態把握のため評価の分析を続けていき指導に役立てていく。